

丹 治 光 浩 教授

研 究 業 績

2023 年 4 月 1 日現在

著書・論文等の区分	著書・論文等の名称、発行所・発表雑誌・学会等の名称、共著の場合の編者・著者名、該当頁数	発行・発表年月
著 書 (単)	『こころのワーク 21』、ナカニシヤ出版、総 227 頁	1995. 2
著 書 (単)	『臨床心理学』、近畿大学豊岡短期大学、総 119 頁	1997. 4
著 書 (単)	『中学生・高校生・大学生のための自己理解ワーク』、ナカニシヤ出版、総 142 頁	2011. 3
著 書 (編)	『心理学あまた、こうだ』、法研、総 221 頁	1997. 11
著 書 (編)	『失敗から学ぶ心理臨床』、星和書店、総 305 頁	2002. 3
著 書 (編)	『心理臨床の本音を語る』、ナカニシヤ出版、総 202 頁	2002. 7
著 書 (編)	『心理療法を終えるとき』、北大路書房、総 212 頁	2005. 8
著 書 (編)	『被害者心理とその回復ー心理的援助の最新技法ー』、ゆまに書房、iii～v、1～25、241～243 頁	2008. 3
著 書 (共)	『心理臨床ケース研究 3』、誠信書房(亀井敏彦、伊藤良子、藤岡新治、岸良範、他 18 名)、165～176 頁	1985. 10
著 書 (共)	『医療カウンセリング』、日本文化科学社(楡木満生、犬塚文雄、渡辺弓子、福田斐子、上田建、中川米造)、97～107 頁	1991. 1
著 書 (共)	『自分さがしの心理学』、ナカニシヤ出版(河瀬正裕、松本真理子、内山伊知郎、柴田俊一、松本英夫)、48～60 頁、68～83 頁	1993. 4
著 書 (共)	『こころの日曜日 4』、法研、114～115 頁、196～197 頁、204～205 頁	1996. 6
著 書 (共)	『新・自分さがしの心理学』、ナカニシヤ出版、61～75 頁、82～89 頁、97～105 頁	1997. 4
著 書 (共)	「重症心身障害児施設」『養護内容』福永博文編、北大路書房(鈴木力、湯沢直美、井戸平八郎、福永博文)、98～102 頁	2004. 2
著 書 (共)	『心理臨床実践における連携のコツ』、星和書店(川瀬正裕、藤田美枝子、渡辺未沙、大場義貴、野田正人)、1～28 頁	2004. 9
著 書 (共)	『これからを生きる心理学』、ナカニシヤ出版(松本真理子・川瀬正裕)、56、79～86、96～107、129～137、142 頁	2007. 12

著 書 (共)	「現代社会の不安と虐待」『虐待と現代の人間関係』橋本和明編、ゆまに書房、51～78 頁	2007. 12
著 書 (共)	「パーソナリティ理論とアセスメント」『実践に役立つ臨床心理学』塩崎尚美編、北樹出版、51～78 頁	2008. 12
著 書 (共)	「臨床心理学とは何か？－臨床心理学概説－」『臨床心理学ことはじめ』花園大学社会福祉学部臨床心理学科編、ナカニシヤ出版	2012. 3
著 書 (共)	「メンタルヘルス」『キャンパスライフ』丸山顯徳編、嵯峨野書院、51～56 頁	2013. 3
著 書 (共)	「精神障害者の人権と偏見の狭間で」『花園大学人権論集 2 1 弱者に寄り添う』花園大学人権教育センター編、批評社、117～130 頁	2014. 3
著 書 (共)	「臨床心理学の立場からみた神話」『神話研究の最先端』笠間書院、117～127 頁	2022. 12
論 文 (単)	「重症心身障害児 (者) に対する母親意識調査」『医療ケースワーク事例集』 20 巻、25～27 頁	1980. 3
論 文 (単)	「脳性まひにおける言語治療」『医療ケースワーク事例集』 21 巻、60～66 頁	1981. 3
論 文 (単)	「脳障害児 (者) のアニミズム的思考について」『医療ケースワーク事例集』 22 巻、95～99 頁	1982. 3
論 文 (単)	「重症心身障害児 (者) における異常行動と発達特性の連関性に関する研究」『重症心身障害研究誌』 7 巻、17～21 頁	1982. 3
論 文 (単)	「GSR バイオフィードバック法による脳性麻痺の緊張緩和に関する研究」『医療』 36 巻 6 号、544～549 頁	1982. 6
論 文 (単)	「重症心身障害児に対する発達検査の問題点とその解決について」『心理測定ジャーナル』 19 巻 2 号、14～18 頁	1983. 2
論 文 (単)	「親子関係診断検査による小児慢性病棟患児の心理学的一考察」『医療ケースワーク事例集』 23 巻、84～89 頁	1983. 3
論 文 (単)	「小児慢性病棟入院患者の親子関係」『小児看護』 8 巻 4 号、486～490 頁	1985. 4
論 文 (単)	「脳性マヒにおける言語治療」『実践障害児教育』 28 巻、46～47 頁	1986. 9
論 文 (単)	「親子関係検査の利用と実際」『心理測定ジャーナル』 22 巻 12 号、8～13 頁	1986. 12
論 文 (単)	「エゴグラムの臨床的利用」『心理測定ジャーナル』 23 巻 7 号、8～14 頁	1987. 7
論 文 (単)	「小児気管支喘息の親子関係と症状の変化」『小児科』 28 巻	1987. 8

	8号、987～992頁	
論文(単)	「小児気管支喘息におけるロールシャッハ・テスト像の変化」 『ロールシャッハ研究』29巻、29～37頁	1987. 9
論文(単)	「合同箱庭療法の意義」『心理臨床学研究』6巻1号、31～41頁	1987. 10
論文(単)	「皮膚電気反射によるロールシャッハ・テスト解釈の検討」 『臨床精神医学』18巻8号、1261～1267頁	1989. 8
論文(単)	「小児慢性疾患の親子関係と教育の問題」『医療の広場』89巻12号、34～43頁	1989. 12
論文(単)	「入院治療を行った登校拒否児の性格と予後に関する研究」 『臨床精神医学』19巻2号、271～276頁	1990. 2
論文(単)	「課題画「坂道と私」を通して臨床的応用を考える」『心理臨床』7巻4号、223～229頁	1994. 12
論文(単)	「バウムテストの投影性に関する研究ーキャンプと季節の要因を通して考えるー」 『花園大学社会福祉学部研究紀要』第9号、花園大学、77～82頁	2001. 3
論文(単)	「箱庭療法における箱の形に関する臨床的研究ー特に円形の箱を用いた経験からー」 『カウンセリング研究』第33巻、276～284頁	2001. 6
論文(単)	「入院治療を行った選択性緘黙児の長期予後について」 『花園大学社会福祉学部研究紀要』第10号、1～9頁	2002. 3
論文(単)	「箱庭療法における箱の大きさに関する臨床的研究」 『花園大学社会福祉学部研究紀要』第11号、1～12頁	2003. 3
論文(単)	「児童精神科臨床からみた現代の子どもと子育て」 『花園大学社会福祉学部研究紀要』第12号、1～8頁	2004. 3
論文(単)	「不登校問題の現状と対策」『学校教育相談』2005年1月増刊号、50～57頁	2005. 1
論文(単)	「不登校問題の現状と対策」『生徒指導』2005年1月増刊号、50～57頁	2005. 1
論文(単)	「セラピスト・クライアント並行箱庭療法の意義と可能性」、 『花園大学社会福祉学部研究紀要』第14号、1～12頁	2006. 3
論文(単)	「心理療法の終結をめぐる諸問題」 『花園大学心理カウンセリングセンター研究紀要』創刊号、23～28頁	2007. 3
論文(単)	「セラピスト・クライアント並行箱庭療法に関する基礎的研究」 『箱庭療法学研究』第19巻第2号、35～48頁	2008. 3
論文(単)	「「スタートレック」の臨床心理学的解釈の試み」 『花園大学社会福祉学部研究紀要』第17号、1～11頁	2009. 3

論文(単)	「大学生の自己理解を目的としたグループワークの開発」『花園大学社会福祉学部研究紀要』第18号、1～15頁	2010. 3
論文(単)	「心理療法と十牛図」『花園大学心理カウンセリングセンター研究紀要』第5号、17～28頁	2011. 3
論文(単)	「心理アセスメント技法としての箱庭の可能性」『花園大学社会福祉学部研究紀要』第19号、1～14頁	2011. 3
論文(単)	「学校教育におけるグループワークの方法と課題」『花園大学社会福祉学部研究紀要』第21号、111～117頁	2013. 3
論文(単)	「バウムテストにおける多数回法に関する基礎研究」『花園大学社会福祉学部研究紀要』第30号、29～33頁	2022. 3
論文(単)	「心理学的視点からみた迷信の功罪」『花園大学社会福祉学部研究紀要』第31号、49～56頁	2023. 3
論文(共)	「小児気管支喘息の心身医学的研究～バウムテストを用いて～」『思春期医学』3巻1号、(三原龍介、水野明典)、69～73頁	1985. 4
論文(共)	「思春期やせ症と減食者の比較～質問紙によるスクリーニングの有用性について」『臨床精神医学』13巻5号、(大嶋正浩、松本英夫、市川光洋、三原龍介、松下恵美子)、567～574頁	1983. 5
論文(共)	「長期入院患者にみられる親子関係の研究」『思春期医学』3巻3号、(三原龍介、水野明典)、57～61頁	1985. 12
論文(共)	「青年期前期に発症した精神分裂病の診断と予後」『精神神経学雑誌』90巻10号、(松本英夫、瀬川明孝、大原健士郎)、806～812頁	1988. 10
論文(共)	「看護学生の適応に関する研究」『浜松衛生短期大学紀要』13巻、(松本真理子、今泉寿明)、5～64頁	1991. 4
論文(共)	「抜毛症の臨床的研究」『児童精神医学とその近接領域』32巻3号、(可知佳世子、松本英夫、大原健士郎)、219～231頁	1991. 6
論文(共)	「宗教色の濃厚な養育環境の中で発症した精神分裂病の2例」『臨床精神医学』21巻11号、(可知佳世子、松本英夫、大原健士郎)、1747～1753頁	1992. 11
論文(共)	「描画法におけるストレスの投影性に関する研究」『臨床描画研究』8巻、(松本真理子、今泉寿明)、202～212頁	1993. 9
論文(共)	「入院治療を行った不登校児の質的変遷に関する研究」『臨床精神医学』24巻3号、(松本英夫、可知佳世子、松本真理子)、305～309頁	1995. 3

論文（共）	「虐待された中学生 A 子の事例」『包括システムによる日本ロールシャッハ学会誌』第 6 巻第 1 号、9～25 頁	2002. 3
論文（共）	「心理療法における失敗要因とその防止策について」『花園大学社会福祉学部研究紀要』第 16 号、43～51 頁	2008. 3
論文（共）	「ロールシャッハ技法の使用実態と臨床感について」『花園大学社会福祉学部研究紀要』第 21 号、111～117 頁	2014. 3
その他（単）	「バイオフィードバック法による脳性麻痺の緊張緩和に関する研究（第 1 報）」『昭和 55 年度国立療養所地区個別研究報告書』、21～25 頁	1981. 4
その他（単）	「EMG バイオフィードバック法による脳性まひの緊張緩和に関する研究」『厚生省心身障害研究昭和 56 年度研究業績報告書』、296～300 頁	1982. 4
その他（単）	「バイオフィードバック法による脳性麻痺の緊張緩和に関する研究（第 2 報）」『昭和 56 年度国立療養所地区個別研究報告所』、31～36 頁	1982. 4
その他（単）	「バイオフィードバック法による脳性麻痺の緊張緩和に関する研究（第 3 報）」『昭和 57 年度国立療養所地区個別研究報告所』、15～19 頁	1983. 4
その他（単）	「重症心身障害児（者）施設における病棟運営の実践的課題について」『厚生省心身障害研究昭和 58 年度研究業績報告集』、351～353 頁	1984. 4
その他（単）	「親子合同箱庭療法における小児神経症、気管支喘息の臨床的治療研究（第 1 報）」『昭和 58 年度国立療養所東海北陸地区治療研究業績集』、43～50 頁	1984. 4
その他（単）	「常に新しい発想のクリニックをめざして 3 年目」『心理臨床』8 巻 3 号、186 頁	1995. 9
その他（単）	「スクールサポーターとして学校を訪問して思うこと」『心理臨床』8 巻 4 号、260 頁	1995. 12
その他（単）	「多職種研究会とネットワーク」『心理臨床』9 巻 1 号、74 頁	1996. 3
その他（単）	「自覚が足りない」『心理臨床』9 巻 2 号、133 頁	1996. 6
その他（単）	「スクールカウンセラー雑感」『心理臨床』9 巻 3 号、205 頁	1996. 9
その他（単）	「第 2 回包括システムによる日本ロールシャッハ学会印象記」『心理臨床』9 巻 3 号、187 頁	1996. 9
その他（単）	「いまどきの若者」『心理臨床』9 巻 4 号、278 頁	1996. 12
その他（単）	「フットワークの軽さは院長のおかげ」『心理臨床』10 巻 1 号、57 頁	1997. 3

その他（単）	「本当に地域に根づくためにすべきこと」『心理臨床』10巻2号、125頁	1997. 6
その他（単）	「花園大学」『心理の大学・大学院』朱鷺書房、166頁	2003. 9
その他（単）	「最近、親について感じたこと」『花園』平成16年1月号、16～17頁	2004. 1
その他（単）	「説明すること」と「理解すること」について『全国学校教育相談研究会研究紀要』No.42、12頁	2008. 3
その他（単）	「花園大学大学院」『こころの科学特別号 臨床心理士養成指定・専門職大学院ガイド2009』、日本評論社、87頁	2008. 11
その他（単）	「ユング研究所とスイスの心理臨床事情」『花園大学心理カウンセリングセンター研究紀要』第4号、45～50頁	2010. 3
その他（単）	「死を生きる」『花園』平成25年4月号、4～7頁	2013. 4
その他（単）	「迷信を生きる」『花園』平成25年8月号、4～7頁	2013. 8
その他（単）	「ただ生きて、死んでいけたら素晴らしい？」『花園』平成25年12月号、4～7頁	2013. 12
その他（単）	「死の恐怖をどう乗り越えるか」『花園』平成26年4月号、4～7頁	2014. 4
その他（単）	「アサーティブという生き方」『花園』平成26年8月号、4～7頁	2014. 8
その他（単）	「考え方が行動を変える」『花園』平成26年12月号、4～7頁	2014. 12
その他（単）	「心理学と仏教、もしくは禅（1）」『禅文化』236号、47～52頁	2015. 4
その他（単）	「心理学と仏教、もしくは禅（2）」『禅文化』237号、105～109頁	2015. 7
その他（単）	「心理学と仏教、もしくは禅（3）」『禅文化』238号、59～64頁	2015. 10
その他（単）	「偏見に向き合う」『花園大学人権教育研究センター報』第28号、1頁	2015. 12
その他（単）	「心理学と仏教、もしくは禅（4）」『禅文化』239号、60～65頁	2016. 1
その他（単）	「まずは、考えることから始めよう」『花園大学人権教育研究センター報』第29号、1頁	2016. 4
その他（単）	「ロールシャッハ・テストの臨床的深化と課題」『包括システムによる』日本ロールシャッハ学会誌第21号、2頁	2016. 9
その他（単）	「差別する心の蓋然性への挑戦」『花園大学人権教育研究セ	2016. 12

	ンター報』第30号、1頁	
その他（単）	「自律した大人へ」『花園大学人権教育センター報』第31号、1頁	2017. 4
その他（単）	「喫煙者の権利はどこまで守られるべきか」『花園大学人権教育センター報』第32号、1頁	2017.12
その他（単）	サロン「クワトロ3」—4人の学長たちの伝言—「もう五月だけでない」京都新聞夕刊	2017.1.19
その他（単）	サロン「クワトロ3」—4人の学長たちの伝言—「思考変え、視野広げよう」京都新聞夕刊	2017.6.21
その他（単）	サロン「クワトロ3」—4人の学長たちの伝言—「まさに自己探求への道」京都新聞夕刊	2017.8.16
その他（単）	サロン「クワトロ3」—4人の学長たちの伝言—「相手と同じ視点に立つ」京都新聞夕刊	2017.10.11
その他（単）	サロン「クワトロ3」—4人の学長たちの伝言—「今この瞬間を生きよう」京都新聞夕刊	2017.12.6
その他（単）	「心に響く本気の関わり」京都新聞夕刊、	2018. 2
その他（単）	「建学の精神について」『花園大学人権教育センター報』第33号、1頁	2018. 4
その他（単）	「建学の精神とその重要性」『私学経営』第543号、4-9頁	2020. 5
その他（単）	書評「岩壁茂著「改訂増補 心理療法・失敗例の臨床研究—その予防と治療関係の立て直し方」（金剛出版）『臨床心理学』132号、781頁	2022.11
その他（共）	「重症心身障害児の療育カリキュラムの設定に関する研究（第1報）」『厚生省心身障害研究昭和56年度研究業績報告書』、（上村等、他）、296～299頁	1982. 4
その他（共）	「重症心身障害児（者）施設における職員意識に関する研究（第1報）」『厚生省心身障害研究昭和56年度研究業績報告書』、（福田珠江、加藤京子、他）、648～654頁	1982. 4
その他（共）	「EMG・GSR 併用バイオフィードバック法による脳性麻痺の緊張緩和に関する研究」『厚生省心身障害研究昭和57年度研究業績報告書』、155～157頁	1983. 4
その他（共）	「重症心身障害児の療育カリキュラムの設定に関する研究（第2報）」『厚生省心身障害研究昭和57年度研究業績報告書』、（上村等、阿部幸泰、岡村義人、橋本憲夫、木村久子、佐藤さち子、茅根明、朝倉孝夫、他）、197～205頁	1983. 4
その他（共）	「重症心身障害児（者）施設における職員意識に関する研究（第2報）」『厚生省心身障害研究昭和57年度研究業績報告書』	1983. 4

	書』、(福田珠江、加藤京子、他)、518~524 頁	
その他(共)	「親子合同箱庭療法における小児神経症、気管支喘息の臨床的治療研究(第2報)」『昭和59年度国立療養所東海北陸地区治療研究業績集』、(三原龍介、夏目美也子、真島武)、43~51 頁	1985. 4
その他(共)	「親子合同箱庭療法における小児神経症、気管支喘息の臨床的治療研究(第3報)」『昭和60年度国立療養所東海北陸地区治療研究業績集』、(山本直美)、33~48 頁	1986. 4
その他(共)	「発達心理学的にみた森田神経質の形成」『メンタルヘルス岡本記念財団研究報告集』2号、(松本英夫、青島正明、大瀧和男、星野良一、川上香、大原浩一、大原健士朗)、105~110 頁	1990. 12
その他(共)	「発達心理学的にみた森田神経質の形成」『岡本記念財団研究助成報告書』12巻、(松本英夫、青島正明、大瀧和男、星野良一)、105~110 頁	1991. 5
口頭発表(単)	「重症心身障害児(者)における異常行動と発達特性の連関性に関する研究」、第7回重症心身障害研究会、東京	1981. 9
口頭発表(単)	「GSR バイオフィードバック法による脳性麻痺の緊張緩和に関する研究」、第36回国立病院療養所総合医学会、福岡	1981. 10
口頭発表(単)	「重度脳性まひにおける言語治療の限界と方法」、第37回国立病院療養所総合医学会	1982. 9
口頭発表(単)	「GSR・EMG 併用バイオフィードバック法による脳性麻痺の緊張緩和に関する研究」、第46回日本心理学会、京都大学	1982. 11
口頭発表(単)	「親子合同箱庭療法による小児神経症、気管支喘息の臨床的治療研究」、第47回日本心理学会	1983. 9
口頭発表(単)	「重症心身障害児における問題行動と発達特性の連関性に関する研究」、第38回国立病院療養所総合医学会、名古屋市	1983. 11
口頭発表(単)	「小児気管支喘息のパーソナリティと親子関係」、第25回児童青年精神医学会、京都市	1984. 10
口頭発表(単)	「小児気管支喘息におけるロールシャッハ像の変化」、第49回日本心理学会、東京	1985. 7
口頭発表(単)	「合同箱庭療法による登校拒否の治療事例」、三遠ブロック診療部会、豊橋市	1985. 10
口頭発表(単)	「小児気管支喘息の親子関係と予後~CAI を使って~」、第40回国立病院療養所総合医学会、広島市	1985. 11
口頭発表(単)	「ロールシャッハ・テスト施行中のGSRの変化」、第2回中京臨床心理学会、名古屋市	1986. 5

口頭発表（単）	「合同箱庭療法の意義と問題点」、日本心理臨床学会第5回大会、大阪市	1986. 8
口頭発表（単）	「小児慢性疾患の心理・社会的問題～臨床心理の立場から～」、第43回国立病院療養所総合医学会、松山市	1988. 11
口頭発表（単）	「子どもの抑うつ傾向と両親像～CDI, アンケート、人物画の分析から～」、第10回日本社会精神医学会、金沢市	1989. 3
口頭発表（単）	「小児気管支喘息における親の養育態度の世代間伝承について」、第20回静岡県精神医学懇話会、浜松市	1989. 4
口頭発表（単）	「小児気管支喘息における症状と心理的变化」、第30回日本心身医学会総会、名古屋市	1989. 6
口頭発表（単）	「看護学校入学試験時における心理検査の意義」、第44回国立病院療養所総合医学会、仙台市	1989. 10
口頭発表（単）	「看護学生の職業同一性に関する研究」、第54回日本心理学会、東京	1990. 6
口頭発表（単）	“On the Clinical Significance of the Projective Drawing Method : Sakamichi to Watashi” , JAPAN/UNITED STATES INTERNATIONAL EXCHANGE IN PSYCHOLOGICAL COUNSELING , UCLA	1991. 8
口頭発表（単）	「投影描画法「坂道と私」の臨床的応用について」、第1回日本描画テスト・描画療法学会、名古屋市	1991. 9
口頭発表（単）	「小児気管支喘息の予後に関する研究～ロールシャッハ・テストを用いて～」、第46回国立病院療養所総合医学会、名古屋市	1991. 11
口頭発表（単）	「箱庭療法における箱の形に関する臨床的研究～特に円形の箱を用いた経験から～」、第12回日本心理臨床学会、那覇市	1993. 12
口頭発表（単）	「バウムテストに反映するもの、しないもの～キャンプと季節の要因を通して～」、第14回日本心理臨床学会、博多市	1995. 10
口頭発表（単）	「スクールサポート事業の意義とその課題」、第29回日本カウンセリング学会、名古屋市	1996. 5
口頭発表（単）	「入院治療を行った選択緘黙の長期予後について」、第38回日本教育心理学会、つくば市	1996. 11
口頭発表（単）	「スクールカウンセラーが他校の生徒と関わる意義」、第30回日本カウンセリング学会、東京	1997. 7
口頭発表（単）	「箱庭療法における箱の大きさに関する臨床的研究～特に小型の箱を用いて～」、第16回日本心理臨床学会、仙台市	1997. 9
口頭発表（単）	「教師と生徒の許容度に関する調査研究」、第39回日本教育心理学会、広島市	1997. 9
口頭発表（単）	「スクールカウンセラーが学校からいなくなる時」、第31回	1998. 8

	日本カウンセリング学会、仙台市	
口頭発表（単）	「学校から医療機関へ面接場所が移動した不登校の事例」、第32回日本カウンセリング学会、東京	1999. 8
口頭発表（単）	「治療の終結に関する調査研究－円満終結群と中断群の比較を通して－」、第22回日本心理臨床学会、京都大学	2003. 9
口頭発表（単）	「セラピスト・クライアント同時箱庭制作法に関する基礎的研究」、日本箱庭療法学会第18回大会、広島国際大学	2004. 10
口頭発表（単）	「終結の仕方－うつ病の事例を通して考える」、日本カウンセリング学会第38回大会、栃木県教育会館	2005. 8
口頭発表（単）	「セラピスト・クライアント同時箱庭製作法に関する基礎的研究（2）」、日本箱庭療法学会第19回大会、明治大学	2005. 10
口頭発表（単）	「失敗から学ぶ心理臨床（5）」、第24回日本心理臨床学会、関西大学	2006. 9
口頭発表（単）	「スタートレックの心理学的解釈の試み」、日本心理学会第72回大会、北海道大学	2008. 9
口頭発表（単）	「心理アセスメント技法としての箱庭の可能性」、日本箱庭療法学会第24回大会、岡山市ノートルダム清心女子大学	2010. 10
口頭発表（単）	「心理検査の持ち帰り実施が結果に及ぼす影響について」、日本心理学会第76回大会、専修大学	2012. 9
口頭発表（単）	「バウムテストにおける5枚法に関する基礎研究」、日本心理学会第77回大会、北海道大学	2013. 9
口頭発表（単）	「パーソナリティの他者への投影はどの程度生じるか」、日本心理学会第79回大会、名古屋大学	2015. 9
口頭発表（単）	「A research on how to construct the test battery in Psychological assessment」 The 31th International Congress of Psychology, Yokohama	2016. 9
口頭発表（単）	「Basic study on multiple drawing of the Baum Test」2018 Annual Conference of the Korean Psychological Association, Seoul、	2018. 8
口頭発表（単）	「The challenges and contingency strategies of Buddhist universities」2019 FGS University Presidents Forum, Fo Guang University, Yilan County, Taiwan,	2019. 11
口頭発表（単）	「十牛図から見た心理療法の終結」日本心理学会第84回大会、東洋大学	2020. 9
口頭発表（単）	「心理学的視点から見た迷信の功罪」日本心理学会第86回大会、日本大学	2022. 9
口頭発表（共）	「親子関係診断検査による小児病棟患児の心理学的一考察」、	1983. 9

	三遠ブロック診療部会、天竜市	
口頭発表（共）	「生後4年間サークルベッドで養育され autistic feature を示した deprivation child」、第9回静岡県精神医学懇話会、静岡市	1983. 10
口頭発表（共）	「児童期分裂病の発症に関して」、第24回児童青年精神医学会、出雲市	1983. 10
口頭発表（共）	「精神分裂病患者の幼少時期における不適応反応、行動化について」、第24回児童青年精神医学会、出雲市	1983. 10
口頭発表（共）	「思春期やせ症の食行動～減食者との比較～」、第9回静岡県精神医学懇話会、浜松市	1983. 11
口頭発表（共）	「登校拒否児の発達的研究（第1報）～中学生の症例を中心として～」、第115回東海精神神経学会、津市	1983. 12
口頭発表（共）	「小児喘息患者のパーソナリティと親子関係についての検討」、第10回静岡県精神医学懇話会、静岡市	1984. 4
口頭発表（共）	「長期入院患者にみられる親子関係とその問題点～田研式親子関係診断テストを用いて～」、第3回日本思春期学会、浜松市	1984. 8
口頭発表（共）	「小児喘息患者の症状の変化とバウムテストの相関」、第3回日本思春期学会、浜松市	1984. 8
口頭発表（共）	「うつ状態の過食について」、第80回精神神経学会、福岡市	1984. 9
口頭発表（共）	「小児気管支喘息の家族絵画」、第2回小児心身医学研究会、大阪市	1984. 9
口頭発表（共）	「登校拒否児の発達過程による類型化の試み～中学生症例を中心として～」、第11回静岡県精神医学懇話会、浜松市	1984. 10
口頭発表（共）	「登校拒否児の発達過程による類型化の試み～中学生症例を中心として～」、第25回児童青年精神医学会、京都市	1984. 10
口頭発表（共）	「小児気管支喘息の症状と親子関係の相関」、第39回国立病院療養所総合医学会、大阪市	1984. 11
口頭発表（共）	「家族合同箱庭療法の方論的検討」、第39回国立病院療養所総合医学会、大阪市	1984. 11
口頭発表（共）	「入院森田療法におけるバウムテストの変化」、第2回森田療法学会、浜松市	1984. 11
口頭発表（共）	「浜松医大思春期・児童外来の活動報告」、第118回東海精神神経学会、岐阜市	1984. 12
口頭発表（共）	「入院森田療法におけるバウムテストの変化」、第12回静岡県精神医学懇話会、静岡市	1985. 4
口頭発表（共）	「入院治療を行った登校拒否児の施設内適応と予後の関係」、	1985. 10

	第 26 回児童青年精神医学会、横浜市	
口頭発表（共）	「親子合同箱庭療法を試みた登校拒否の一症例」、第 13 回静岡県精神医学懇話会、静岡市	1985. 10
口頭発表（共）	「入院登校拒否児の病棟内適応についての研究」、第 40 回国立病院療養所総合医学会、広島市	1985. 11
口頭発表（共）	「天竜病院小児病棟における問題行動の変遷」、第 14 回静岡県精神医学懇話会、静岡市	1986. 4
口頭発表（共）	「家系図の治療的意義」、日本家族研究・家族療法学会第 1 回大会、東京	1986. 5
口頭発表（共）	「ロールシャッハ・テスト施行中の GSR の変化」、第 15 回静岡県精神医学懇話会、浜松市	1986. 10
口頭発表（共）	「テーマが繰り返された夜尿症児の箱庭療法について～半陰陽の男子症例～」、第 15 回静岡県精神医学懇話会、浜松市	1986. 10
口頭発表（共）	「天竜病院小児病棟におけるいじめについて（その 1）」、第 15 回静岡県精神医学懇話会、浜松市	1986. 10
口頭発表（共）	「入院治療を行った登校拒否児の予後と性格に関する研究」、第 27 回児童青年精神医学会、福島市	1986. 11
口頭発表（共）	「児童期の分裂病に関する研究～分類および成人症例との比較～」、第 27 回児童青年精神医学会、福島市	1986. 11
口頭発表（共）	「児童期の精神分裂病～ロールシャッハ・テストを中心に～」、第 82 回日本精神神経学会総会、森岡市	1986. 11
口頭発表（共）	「入院登校拒否児の病棟内適応についての研究（第 2 報）」、第 41 回国立病院療養所総合医学会、東京	1986. 11
口頭発表（共）	「児童期に発症した精神分裂病に関する臨床的研究（その 1）～分類を中心として～」、第 123 回東海精神神経学会、名古屋市	1986. 12
口頭発表（共）	「児童期に発症した精神分裂病に関する臨床的研究（その 2）～成人症例との比較を中心として～」、第 123 回東海精神神経学会、名古屋市	1986. 12
口頭発表（共）	「登校拒否児の両親の性格像～ EPPS, CMI を通して～」、第 42 回国立病院療養所総合医学会、熊本市	1987. 10
口頭発表（共）	「選択緘黙における入院療法の意義、第 28 回児童青年精神医学会」、大阪市	1987. 11
口頭発表（共）	「マンガに見る性の世界～大人の視点と子どもの視点の比較を中心に～」、第 28 回児童青年精神医学会、大阪市	1987. 11
口頭発表（共）	「同性愛葛藤を契機に発症した離人神経症の一例」、第 128 回倒壊精神神経学会、名古屋市	1988. 6

口頭発表（共）	「治療の終結と治癒するということ～ヒステリーの女兒を通して～」、第7回日本心理臨床学会、東京	1988. 8
口頭発表（共）	「思春期前期の境界例について～思春期病棟における対応についての一考察～」、第19回静岡県精神医学懇話会、静岡市	1988. 10
口頭発表（共）	「身体症状を呈する児童における人物画とロールシャッハ・テストの特徴」、第30回児童青年精神医学会、浜松市	1989. 11
口頭発表（共）	「身体症状を主訴に来院した児童の症状別特徴～人物画とロールシャッハ・テストの検討から～」、第86回日本精神神経学会総会、鹿児島市	1990. 5
口頭発表（共）	「抜毛症の臨床的検討」、第86回日本精神神経学会総会、鹿児島市	1990. 5
口頭発表（共）	「漢字の好みと性格に関する研究」、第54回日本心理学会、東京	1990. 6
口頭発表（共）	「自画像と職業同一性～看護学生を対象に～」、第39回東海心理学会、名古屋市	1990. 6
口頭発表（共）	「神経性抜毛症の臨床的研究」、第31回日本心身医学会総会、福岡市	1990. 6
口頭発表（共）	「抜毛症児の臨床的検討」、第31回日本心身医学会総会、福岡市	1990. 6
口頭発表（共）	「投影描画法におけるストレスとその対応の表われ方～「坂道と私」「雨の中の私」「PFスタディ」を通して～」、第9回家族画研究会、福岡市	1990. 9
口頭発表（共）	「心理検査からみた看護学生の職業的同一性に関する研究」、第45回国立病院療養所総合医学会、横浜市	1990. 11
口頭発表（共）	「漢字の好みと性格に関する研究（2）」、第55回日本心理学会、仙台市	1991. 6
口頭発表（共）	「児童・思春期における「あいまいさ」に対する寛容度について～患者群と健常対像群の比較～」、第32回日本児童青年精神医学会、岐阜市	1991. 10
口頭発表（共）	「宗教色の濃い養育環境の中で幼少期から種々の症状を呈した精神分裂症の二例」、第26回静岡県精神医学懇話会、浜松市	1992. 3
口頭発表（共）	「著名な腹痛発作を伴った周期性ACTH-ADH分泌過剰症の2例～心身症としての側面から～」、第33回日本心身医学会総会、札幌市	1992. 6
口頭発表（共）	「さまざまな身体症状が前駆した児童期の精神分裂病」、第33回日本心身医学会総会、札幌市	1992. 6

口頭発表（共）	「地方都市における開業の在り方～浜松カウンセリング研究所の歩み～」、第11回日本心理臨床学会、東京	1992. 9
口頭発表（共）	「入院治療を行った不登校児の長期的予後～アンケート調査をもとに～」、第33回日本児童青年精神医学会、横浜市	1992. 11
口頭発表（共）	「児童期の精神分裂病に関する発達の研究～前駆症状と幼少時期の発達を中心に～」、第33回日本児童青年精神医学会、横浜市	1992. 11
口頭発表（共）	「入院治療を行った不登校児の質的変遷に関する研究」、第33回日本児童青年精神医学会、横浜市	1992. 11
口頭発表（共）	「看護学生の職業同一性に関する研究（2）」、第47回国立病院療養所総合医学会、大阪市	1992. 11
口頭発表（共）	「抜毛症児との精神的関わり～治療経過が良好であった2例を通して～」、第141回東海精神神経学会、愛知郡	1992. 12
口頭発表（共）	「気分障害に摂食障害が合併した姉妹例、第28回静岡県精神医学懇話会」、浜松市	1993. 3
口頭発表（共）	「摂食障害を初発症状として顕在化した青年期分裂病の検討」、第34回日本心身医学会総会、横浜市	1993. 6
口頭発表（共）	「“育児困難”の評価と対応（1）～評価スケールの作成～」、第13回日本心理臨床学会、京都市	1994. 9
口頭発表（共）	「思春期のデイケアの治療構造について」、第36回日本児童青年精神医学会、岡山市	1995. 11
口頭発表（共）	「超常現象知識尺度（PKS-40）の開発、日本超心理学会第28回大会、東京	1995. 12
口頭発表（共）	「当院思春期デイケアの特徴とその関わりについて」、第13回日本集団精神療法学会、調布市	1996. 3
口頭発表（共）	「思春期デイケアの4年間を振り返って～プログラムの変遷～」、第2回日本デイケア研究会、習志野市	1997. 9
口頭発表（共）	「思春期デイケアへの客観的評価導入の試み」、第38回日本児童青年精神医学会総会、北九州市	1997. 11
口頭発表（共）	「注意欠陥および破壊的行動障害の臨床的研究～他施設における検討～」、第39回日本児童青年精神医学会総会、東京	1998. 10
口頭発表（共）	「「想像上の友人」を伴う特定不能の解離性障害・心的外傷後ストレス障害の治療過程」、第155回東海精神神経学会、浜松市	1999. 6
口頭発表（共）	「臨床心理士からみた精神障害者社会復帰施設の治療的意義について」、第18回日本心理臨床学会、文教大学	1999. 9
口頭発表（共）	「学級崩壊の原因と対応に関する意識調査」、第40回日本児	1999. 10

	童青年精神医学会、東京	
口頭発表（共）	「精神医療に携わる臨床心理士の専門性とは職種との連携」、 第19回日本心理臨床学会、京都文京大学	2000. 9
口頭発表（共）	「児童養護施設におけるアメニティと子どものストレス」、 第45回児童青年精神医学会、名古屋市	2004. 11
口頭発表（共）	「ロールシャッハ・テスト技法の使用実態と意識について」、 日本心理臨床学会第31回大会、愛知学院大学	2012. 9
口頭発表（共）	「面接の終わり～対象者との別れ」日本犯罪心理 学会第56回大会、奈良県文化会館	2018. 12
社会的活動	包括システムによる日本ロールシャッハ学会 編集委員	
社会的活動	京都府臨床心理士会 監事	
社会的活動	京都グループワーク研究会 顧問	
社会的活動	但馬カウンセリングオフィス スーパーバイザー	
